

令和7年度岩手県性教育研修会の活動報告

岩手県性教育研究会
会長 佐藤 恵

1 はじめに

今年度は、今、求められる性教育について、諸外国の性教育の在り方や性教育に関する様々な見方を学んだ後、実際の教育現場では、どのような実践が行われているのかについての情報提供をいただき、学ぶ機会とした。

2 研修会の開催

(1) 期 日

令和7年8月24日（日）

(2) 会 場

花巻市交流会館

(3) テーマ

～今、求められる性教育の形～

3 研修会の内容

(1) 講演

「今、求められる性教育の形」

全性連理事長 野津 有司 氏



世界における日本の性教育の現状について知ることができた。学校を基盤とした包括的性教育には、ばらつきがあるため、社会全体での様々なアプローチが必要になってくる。まずは、目の前の子ども達をしっかりと見て、日本の学校教育の特長をふまえて諸外国から何をどう学ぶか、鳥の目、虫の目で丁寧に吟味する必要がある。

(2) 講話

東京医療保健大学和歌山看護学部非常勤講師
岩手県教育委員会スクールカウンセラー
入駒 一美 氏



性教育は、生きる教育である。自分も大切に、相手も大切にすることからスタートして、「生命の安全教育」の推進が必要。「一人がすぐく頑張る連携」から「みんなが少しずつ頑張る連携」へ移行し、チーム学校として連携して取り組んでいくことが重要である。

4 成果と課題（参加者の感想から）

○4月から教員になり知識も経験もなくとても不安だった。発達段階に合わせて必要な学びを提供し、共感的な理解と自己有用感を得られるような授業づくりをすることが大切だと学んだ。

○性教育をブーム化させないためにも、まずは目の前にいる児童、生徒と向き合い、自分自身も学び続けて知識をつけていきたい。

○性に関する考え方や指導内容については常にアンテナを高くし、情報をうのみにせず、どう伝えるかを考えていきたい。

○保健の授業は、知識の伝達がメインの講義形式に落ち着きがちだが、今回のロールプレイに関する実践は短時間で思考、判断、表現の力を使うことができると感じた。

○勤務校では、性に関するトラブルが毎年あり、学校の中で教員がいかに性教育に理解を示し、良いチームを作っていくかが大きな課題の一つであると感じている。

5 おわりに

全性連のお力添えをいただき、無事研修会を終えることができた。改めて性教育の必要性を再認識した。今後は、参加者同士の交流の機会としての側面も充実させながら、研修会の内容をより良いものにできるよう工夫していきたい。